

昔の勝浦の漁業



明治時代の沢倉の海岸か？この頃はイワシを捕りイワシを干して干鰯（ほしか）という肥料にして売っていた。船は人が押して海に出し、引き上げも人がした。



戦後間もない頃の勝浦漁港で、船の形から時代がわかる。写真の右上に馬が大八車やリヤカーを引いているのが見える。



昭和30年頃の串浜漁港。漁船を水に入れて引き上げた女性達が火で冷えた体を暖めてている。ヤッサ籠（かご）の中にはイワシが入っている。



昭和30年代の勝浦漁港の写真で、写っているのはサバ船で全国からサバ漁のため勝浦にきた船である。この頃勝浦はサバの漁獲高が日本一になった。



昭和30年代は、まだ「ろ」を人力で回し船を引き上げていた。船が新しく、新しい大漁旗が見えるので、新造船なのだろうか。



昭和30年代の勝浦漁港は、漁港の整備が進められた。建設用の物資を運ぶために漁港内に線路がひかれ物資はトロッコで運ばれた。昭和40年代に整備は完了した。